
日本図書館文化史研究会

ニューズレター

第 100 号 2006 年 5 月 3 日

日本図書館文化史研究会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalih/index.html>

〒101-8301 千代田区神田駿河台 1-1

明治大学司書・司書教諭課程

郵便振替口座 00170-5-164973

(事務局)

小黒浩司

■■ 目 次 ■■

日本図書館文化史研究会	2007 年度第 1 回研究例会のご案内	2
日本図書館文化史研究会	2007 年度研究集会のご案内	5
日本図書館文化史研究会	2007 年度研究集会個人発表募集のお知らせ	6
	『ニューズレター』100 号記念—事務局長時代の思い出 (阪田蓉子)	7
追悼	石井敬三前事務局長	8
	前事務局長、石井敬三さんを偲んで (深井耀子)	
	石井敬三氏追悼記 (中林隆明)	
日本図書館文化史研究会	2006 年度第 3 回研究例会発表要旨	10
運営委員会通信		11
事務局だより		12
	会費納入のお願い	
	『図書館人物伝 (仮称)』について	
	研究例会レジュメ、差し上げます	
	会員動向	

日本図書館文化史研究会

2007 年度第 1 回研究例会のご案内

2007 年度第 1 回の研究例会を、下記のように開催します。今回は貴重な映像資料を上映します。是非ともご参加ください。

記

- 日 時 6 月 2 日 (土) 14 時～16 時
- 場 所 明治大学 リバティタワー8 階 1084 教室
<http://www.meiji.ac.jp/campus/surugadai.pdf>
※ リバティタワーの位置、交通等は 4 ページ掲載の地図
をご参照ください。
- 参加費 無料
- 申込方法 参加ご希望の方は、本研究会事務局まで、郵便、ファックス、
または電子メールでお申込ください。
- 申込締切 5 月 27 日 (必着) でお申し込みします。

【発表 1】

- 発表者

井上 靖代 (獨協大学)

- 発表題名

映像にみる図書館の歴史

- 発表要旨

アメリカ中西部農村地域における読書運動や自己学習の支援活動として、州立大学図書館が積極的にラジオ放送や映像を活用した 1930 年代を背景として、第二次世界大戦後、アメリカ図書館界が、日本に対して映像としてアメリカ図書館思想を広めようとした動きがある。USIS (CIE 図書館) での映画会やナトコの映写機とともに社会教育の一環として、日本各地の図書館などに貸し出され、上映されてきた映像資料群のなかに、図書館をテーマにしたものは、日本で製作された「格子なき図書館」が知られているが、そのほかに 8 本の作品がある。そのうち 2 本を実際にみながら、当時の図書館の姿を考えていく。また、日本で製作された図書館活動の記録もあわせて上映する。映像資料から図書館の文化史を探るきっかけとしたい。

- 上映予定作品

- 「図書館の宝索 (知識の宝庫) Books & People: in the Wealth Within」ALA

製作 1947. 15分

(アメリカ南部での小さな町の公共図書館がいかにつくられていくかや活動はどのようなことをしているか、アウトリーチや図書館委員会の活動などについて紹介している。カラー 音声あり 16mm)

- 「ぼくらのゆめ」+「アメリカ博覧会の日」(A Day at the American Fair)
広島図書製作 1950?. 23分

(学校図書館を子どもたちが自分たちで設立するために、広島図書の移動図書館車の紹介や西宮で開催されたアメリカ博覧会でモデルこども図書館(のちの広島県立(市立)図書館の建物として移築され、資料も移管された)の紹介などをおこなっている。)

- 「みのり号の軌跡 移動図書館の歴史」広島県立図書館製作、製作年不明(昭和30~40年代か? 14分)

(広島県立図書館の移動図書館車と図書館船みのり号の活動を記録したもの。モノクロ。音声なし)

【発表2】

- 発表者

吉田 右子(筑波大学)

- 発表題名

20世紀前半期の公共図書館におけるメディアサービス

- 発表要旨

ラジオをはじめとする新たなメディアがアメリカ社会に普及し始めたのは、20世紀初頭である。図書館員は新しいメディアテクノロジーに対して敏感であり、同時代のニューメディアを貪欲に図書館活動に取り入れた。ラジオ、テレビ、レコード、映画などを利用したサービスにより、アメリカの図書館はすでに20世紀前半には「図書」館という枠組みを超えてメディアセンターとして機能していた。本発表では20世紀前半期の公共図書館におけるニューメディアの受容を、図書館サービスと図書館PR活動の実践から見ていく。またメディアの導入を支えたアメリカ図書館協会の活動について紹介する。

『図書館文化史研究』第25号原稿募集のお知らせ

機関誌『図書館文化史研究』第25号の原稿を募集します。

原稿の締切は2007年12月末日です。ふるってご投稿ください。

なお、この件に関するお問い合わせ、ならびに原稿の送付先は別記事務局までお願いします。

会場案内

Meiji University Campus Guide



研究例会発表募集のお知らせ

本研究会では、毎年度3回（6月頃、12月頃、3月頃）に研究例会を実施しています。研究例会での発表を希望される方は、次の各項を明記して、別記の事務局までお申し込みください。

- 氏名（所属）
- 連絡先（住所、電話、メールアドレス等）
- 発表題目
- 発表要旨（200字程度）
- 発表時間（通常質疑応答を含め1件1時間程度）
- 発表希望場所（例：関東、関西）

なお、2007年度第2回の研究例会は、関東地区で開催する予定です。また、第3回については、九州地区での開催を計画しています。内容等の詳細は、決定次第『ニューズレター』でお知らせします。

日本図書館文化史研究会
創立 25 周年記念 2007 年度研究集会のご案内

2007 年度日本図書館文化史研究会研究集会・総会を、下記のように開催することになりました。今年度の研究集会は、本研究会の創立 25 周年を記念しての、特別企画となりました。多くの方の参加を期待します。

なお、個人発表の内容など詳細につきましては、ニューズレター次号でお知らせします。また個人発表の内容などが決定次第、研究会のウェブサイトに掲載します。

記

- 日 程：2007 年 9 月 15 日（土）・16 日（日）
- 会 場：同志社大学 寒梅館地下 1 階会議室（地 A）
京都市上京区烏丸通上立売下ル御所八幡町 103
<http://www.doshisha.ac.jp/information/facility/kanbai/>
- 交 通：京都市営地下鉄烏丸線今出川駅 2 番出口より徒歩 1 分
京阪本線出町柳駅下車徒歩 15 分
http://www.doshisha.ac.jp/access/ima_access.html
- 参 加 費：2,000 円
懇親会参加費：6,500 円
- 申込方法：次の事項を明記して、下記まで電子メール、ファックス、または葉書でお申し込みください。
氏名（ふりがな）
所属
懇親会参加の有無
図書館見学会参加の有無
- 申 込 先：〒321-3295 宇都宮市竹下町 908
作新学院大学 司書・司書教諭課程 小黒 浩司
電子メール：
ファックス：028(670)3671
- 申込締切： 2007 年 8 月 31 日（必着）

○ プログラム

第 1 日 : 9 月 15 日 (土)

11:00-12:20 同志社大学図書館見学会

- ◆ 見学会の参加は、会員優先とし、先着順に受け付ける予定です。

(12:20-13:30 昼食休憩)

13:30-14:30 会員総会

14:40-14:50 開会挨拶

14:50-15:50 特別講演①

岩猿 敏生

16:00-17:00 特別講演②

小川 徹

17:20-19:20 懇親会 (25 周年記念パーティ)

- ◆ 会 場: 寒梅館 7 階 レストラン (SECOND HOUSE will)
- ◆ 参加費: 6,500 円

第 2 日 : 9 月 16 日 (日)

10:00-15:00 個人発表 4 件

15:00-16:30 運営委員会

日本図書館文化史研究会
2007 年度研究集会個人発表募集のお知らせ

上記研究集会・第 2 日 (9 月 16 日) での個人発表を希望される方は、次の各項を明記して、別記事務局までお申し込みください。

発表時間は質疑応答を含めて 1 件 1 時間程度を予定しています。

- 氏名 (所属)
- 連絡先 (住所、電話、メールアドレス等)
- 発表題目
- 発表要旨 (200 字程度)

『ニューズレター』100号記念—事務局長時代の思い出

阪田 蓉子（明治大学）

日本図書館文化史研究会は、本年、25周年を迎える。これに先立ち、本ニューズレターも100号となった。第1号は1982年の発行である。『図書館文化史研究』は、第13号（1996年）刊行の際に、タイトルに「文化史」が加わった。ニューズレターは、第54号（1995年）でタイトルが変更された。

100号記念にあたって、阪田が事務局長であった時代のことが脳裏に浮かんだ。1986年1月頃から、1989年3月頃までのことである。

* 運営委員会 その頃は、阪田が京都に住んでいたもので、年に3回くらいほど、上京して運営委員会を開いていた。よく使ったのが、新宿の喫茶店「滝沢」である。飲み物の値段は高めであったが、長居ができるのと、別室もあり、数名の会議に手ごろであった。当時は、油井澄子さんや是枝英子さんなど、女性ばかりの運営委員会の日もあった。

* 会の存続 この時代の大きな話題は、日本図書館学会（現日本図書館情報学会）とは別に、わざわざ研究会を作る必要があるのかという意見である。当時は、日本図書館学会も会員が現在ほど多くなかったせいもあり、このような声が内外にあったのである。この問題を考えるために、河井弘志さんがまとめ役となってくださり、発起人を中心に議論した。結果、日本図書館史研究会の存在意義が再確認され、存続が決まった。

* ニューズレター 川崎良孝さんが名古屋におられる頃で、編集者として元原稿を送ってくださり、それを京都で、コピーし、封筒詰め作業をしていた。近所の書店のコピー機を使っていたのだが、機器の状態が悪く、文字がかすれている。とうとう、川崎さんが業を煮やして、コピーしたものを送ってくださるようになった。

一時期は会員の数も少なく、将来が危ぶまれたこともあったが、大学院等で、図書館史専攻の学生を指導する立場にある会員の活躍により、新会員も増え、今日の隆盛（？）の一因となっている。100号刊行を誠に喜ばしく思う。

Web版ニューズレターについて

『ニューズレター』が100号を迎えたことを期して、2006年度発行の96～99号を研究会のウェブサイトに掲載しました。ただし個人情報に関わる部分については、削除しました。

今後バックナンバーを順次PDFファイル化し、研究会のウェブサイトへアップしていく計画です。ご覧になった感想、ご意見などを事務局までお願いします。（<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalih/publish/newsletter/newsletterlist.html>）

追悼 石井敬三前事務局長

前事務局長、石井敬三さんを偲んで

深井 耀子（椋山女学園大学）

あまりにも突然のご訃報にショックをうけ、やがてしみじみと悲しみにおそわれました。思いかえしてみれば嵯峨野での合宿をはじめ関西で発表させていただいたときはいつも、会場担当の石井さんのお世話になりました。研究会の進行など、万事に細かく気をつかい、発表の前夜には「遅刻をしないように」といった電話までいただくほどなのです。1996年7月13日の夜、第13回研究集会の懇親会が大阪府立大学の食堂で開催されましたが、その当夜にあの痛ましいO157中毒事件がおきました。府立大学は堺市に立地していますので「会員が体調をくずしたのではないか」とあとあとまで心配していらしたのは気の毒なくらいでした。

事務局長の仕事としてハイライトというべきイベントは2001年9月研究集会後の「オプションツアー」です。マイクロバスをチャーターして陽明文庫などめったに訪問できない京都の名所を回るという企画で、彼がひとりで3ヶ月もかけて準備しました。とくに印象的なのは訪問先は当然ながら、そのみちゆきにある冷泉家時雨亭文庫や古義堂などのガイドです。西陣に住んでいる彼にとっては「庭」のように熟知している界限なのに、分厚いノートにびっしりと浴道の説明が書きこまれていたのは彼らしいやりかたでびっくりしたものです。

事務局長として献身的につくされました。彼が何もかもまとめてくれるため甘えてしまい、近くに住んでいるのに貢献もせず、今は申し訳ない気持ちでいっぱいです。府立大学を退職なさりこれからの研究を期待していましたので残念でなりません。心からご冥福をお祈りいたします。

石井敬三氏追悼記

中林 隆明（東洋英和女学院大学）

石井敬三さんの訃報（2007.2.9 逝去）を耳にしたのは、この2月の第47回日図研大会（京都・仏教大）に出席したときのことである。一瞬、頭をバットで殴られたような感じがした。正に信じられない、信じたくないニュースである。実はその2、3日前、会場での再会を確認するため何度か電話するが連絡がつかず、なんとなく不安であったが、かかる事態になっていたとは、予想外であった。石井さんを初めてお会いしたのは、彼が言うように、名古屋セミナー

(1989)であったと思うが、いつ知遇を得るに至ったかは今では定かではない。恐らくそれから間もなくであろう。

事務局長時代就任以前にも、京都・コミュニティ嵯峨野で開催した第9回研究集会(1991.8.31-9.1)、さらに大阪府立大学・学术交流センター(堺市)での第13回研究集会(1996.7.13-14)の会場設営をはじめ、隅々まで行き届いた水際立った運営振りに、参加者一同驚嘆したものである。以来、関西近辺での会合や、関東への出張の際、相互に連絡を取り歓談のひと時を過ごした。滋賀・大津での全国図書館大会(第85回1999.10)に参加し、県立図書館見学に同行、楽しい会話を交わしたことも今となっては懐かしい思い出になってしまった。

90年代後半、当研究会は小川徹会長(当時)の指導の下で、曲りなりにも円滑に動いていた。唯、当時関東と関西の二つの両輪で動いてきた研究会の次の事務局として、関西のしかるべき人物にバトンタッチする必要に迫られていた。そして若干の経緯を経て、幸いにも会の事務局長を無事石井さんに委嘱することができた(1999.4-2002.3)。これには彼の相当の決断が必要であったと思われる。それにしても、引受けた以上は誠心誠意実行するのが彼の性格である。そのため、研究会の実務を一身に背負い遂行されたのではあるまいか。またその間、家庭奉仕にも犠牲を払われたのでは、といささか出すぎた心配と反省をしたものである。

ここで石井さんのことを述べたい。彼の言によると、京都西陣で生れ育った由で、滋賀大学(経済)を卒業後、名古屋大学経済学部の瀧澤菊太郎(中小企業研究者)ゼミナールに研究生として所属、愛知学院大学・司書講習を受講後、名古屋学院大学附属図書館に勤務される。その後、大阪府立夕陽丘図書館、次いで府立中之島図書館に転じる。この夕陽丘図書館時代、彼の生涯の研究テーマ、大原文庫(大原社会問題研究所蔵書)に遭遇する。結局、1980年代は府立図書館に在職し、やがて同じ大阪府に属す府立大学に異動する。最初は総合科学部図書室、次いで附属図書館である総合情報センターに転じ、退職を迎えるのである。

府立図書館時代、研究会の名古屋セミナー(1989)に参加、大原文庫について研究報告をいったのもこの間のことである。また、私にとっても関西を通過時には必ず立ち寄ったのが府立中之島図書館(当時)の友人仲田憲弘氏で、同じ部屋に若き石井さんの姿があった。今も当時をありありと思い浮かべることが出来る。その仲田氏も故人となられたが(1990.2.3)。

石井さんは、京都の伝統産業である西陣にゆかりがあるせいか、大学でも経済学を履修され、そのことが当時天王寺にあった夕陽丘図書館収蔵の大原文庫に魅せられたのであろう。また、大原孫三郎に協力して蔵書形成に尽力したのが高野岩三郎であった。同僚の小野塚喜平次(後の東大総長)の協力を得て、高野は東大法学部から分離して経済学部を独立するが、森戸事件に関連して辞職、大阪に転じるのである。大原文庫の生成発展の経過が、蔵書構成と共に石井さんの関心を強く引いたようである。

最後に、彼の大原文庫研究調査が未完に終わったことが悔やまれる。ただここで、その早世を心から悼み、冥福を祈るのみである。

日本図書館文化史研究会
2006 年度第 3 回研究例会報告

3 月 17 日、2005 年度第 3 回研究例会が、明治大学司書・司書教諭課程室を会場に開催されました。参加者は 18 名でした。

【発表 1】

○ 発表者

今井 福司（東京大学大学院教育学研究科 図書館情報学研究室）

○ 発表題名

カリキュラム運動に見られる戦後初期の学校図書館

○ 発表要旨

本発表では、戦後初期の教育運動であるカリキュラム運動を取り上げ、学校図書館の機能、特に「教材管理機能」との関わりを検討した。発表では、まず、CIE や文部省の提言や学習指導要領（試案）を紹介し、カリキュラム運動の概要を説明した。そして、カリキュラム運動の事例として、千葉県館山市立北条小学校の「北条プラン」と、奈良師範学校女子部附属小学校の「奈良吉城プラン」を取り上げ、教材管理機能との関わりを検討した。その結果、これらのプランでは、授業で多様な資料の利用が想定され、授業の一環として図書室を取り扱おうとした記述があった。よって、カリキュラム運動では、教材管理機能を必要とする状況が存在し、学校図書館の萌芽があったと言える。

【発表 2】

○ 発表者

中西 裕（昭和女子大学短期大学部）

○ 発表題名

早稲田大学図書館員毛利宮彦の経歴と業績をめぐって

○ 発表要旨

図書館員・図書館学者として大正から昭和前期にかけて活躍した毛利宮彦は坪内逍遙の縁戚であることは本人が記しているとおり従来から知られていたものの、それ以上の出自に関しては知られていなかった。今回の調査で名古屋の著名な舞踊師匠西川嘉義の甥であることが確認できた。早稲田大学図書館を退職した理由についてはいまだ不明確であるが、辞職にいたる経緯の一旦は逍遙および市島謙吉の日記を併せ読むことによってたどることが可能である。また、毛利は図書館が百貨店の如くあるべしと主張したり、図書館分類は図書館員の自己満足にならないようにと指摘したりするなど、その図書館学観は自由な発想にもとづくものであることが知られた。

運営委員会通信

■ ■ 次回運営委員会について ■ ■

次回運営委員会を、下記のように開催します。本研究会の運営に興味・関心のある方は、是非ともご参加ください。

当日ご都合の悪い方は、別記事務局まで郵便、ファックス、または電子メールで、ご意見、ご希望等をお寄せいただければ、運営委員会で検討いたします。

記

- 日 時 6月2日(土) 16時～17時30分
- 場 所 明治大学 リバティタワー8階 1084教室
- 内 容
 1. 2007年度事業計画・予算について
 2. 2006年度決算について
 3. 2007年度研究集会・総会について
 4. 25周年記念事業について
 5. 日本図書館文化史研究会規約について

ほか

■ ■ 前回運営委員会の報告 ■ ■

実施日：2006年3月17日

場所：明治大学 アカデミーコモン8階 司書・司書教諭課程室

以下のような事項について、協議しました。

1. 石井敬三前事務局長のご逝去について
2. 『図書館人物伝(仮称)』について
3. 2007年度研究集会・総会について
4. 2007年度第1回研究例会について
5. 『ニューズレター』第100号について
6. 『図書館文化史研究』第24号について
7. 2006年度研究集会決算について
8. 2006年度第2回研究例会決算について
9. 2006年度決算について
10. 2007年度事業計画・予算について
11. 日本図書館文化史研究会規約について
12. 会員動向
13. 次回運営委員会について

事務局だより

■■ 会費納入のお願い ■■

2007年度会費の納入をお願いします。会費は3,000円です。会費を納めていただく方には、封筒に「会費振替用紙在中」の朱印を捺し、振替用紙を同封しました。

なお、日本郵政公社の窓口扱いの口座送金手数料が70円から100円に値上げされました。ATM扱いは60円据え置きです。つきましては、会費の送金は極力ATMをご利用くださるようお願い申し上げます。

■■ 『図書館人物伝（仮称）』について ■■

本研究会の創立25周年記念事業の一つである『図書館人物伝（仮称）』の刊行については、応募原稿の査読が終了し、現在執筆者による原稿の修正作業が進行中です。

■■ 研究例会レジュメ、差し上げます ■■

2006年度第3回研究例会の発表レジュメをご希望の方は、事務局までお申し出ください。『ニューズレター』次号に同封してお届けします。